

登録番号 第 16753 号

トレボン®粉剤 DL

- 特長：
- 水稲のウンカ類・ツマグロヨコバイ、コブノメイガ、カメムシ類ほか幅広い害虫に有効です。
 - 害虫に速効的に作用します。
 - 大豆などの豆類や野菜などでも使用できる粉剤タイプの薬剤です。
 - 稲発酵粗飼料（WCS）用稲にも使用できます。

有効成分	エトフェンプロックス・・・0.50%	包装	3kg×8
性状	類白色粉末 45μm以下、浮遊性指数 20以下	有効年限	5年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

【適用害虫及び使用方法】

2023年5月24日付内容

作物名	適用場所	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
稲	-	イナムシ	4kg/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内
		カメムシ類 イナムシ成虫 ツマグロヨコバイ ウンカ類 コブノメイガ アザミヤカ類 イナガ類 イナガロイムシ コメテウ	3~4kg/10a				
		イナガモグリバエ フタヒコヤガ	3kg/10a				
小麦	-	ヒメヒゲウンカ アブラムシ類	4kg/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布	2回以内
豆類(種実)	-	ハスモンヨトウ マシクイガ シロイモシマダラメイガ カメムシ類 フタヒゲヒメムシ ダイズサヤマバエ アブラムシ類 アズキノメイガ	4kg/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布	2回以内
やまのいも	-	シロイモシヨトウ	4kg/10a	収穫14日前まで	3回以内	散布	3回以内
さといも	-	ハスモンヨトウ	4kg/10a	収穫14日前まで	3回以内	散布	3回以内

作物名	適用場所	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
えだまめ	-	ハモンヨトウ	3~4kg/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布	2回以内
		マシクガ シロイモジマダラメガ カミシ類 フタスジヒメムシ ダイズサヤマバエ	4kg/10a				
ばれいしよ	-	テントウムシダマシ類	4kg/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内
かんしょ	-	ハモンヨトウ カシロシカバ	4kg/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内
とうもろこし	-	アノメガ	4kg/10a	収穫7日前まで	4回以内	散布	4回以内
飼料用とうもろこし (子実)	-	アノメガ	4kg/10a	収穫7日前まで	4回以内	散布	4回以内
トマト	-	コジラシ類	4kg/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内
きゅうり	-	ウリハムシ	3~4kg/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
		アブラムシ類	4kg/10a	収穫前日まで			
なす	-	テントウムシダマシ類	4kg/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
okra	-	アブラムシ類	4kg/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
すいか	-	ハモンヨトウ ウリハムシ	4kg/10a	収穫3日前まで	3回以内	散布	3回以内
かぼちゃ	-	コジラシ類	4kg/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
キャベツ	-	ハモンヨトウ アブラムシ類 アオムシ	3~4kg/10a	収穫3日前まで	3回以内	散布	3回以内
はくさい	-	アオムシ	3~4kg/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内
		コガ	4kg/10a				
だいこん	-	アオムシ	3~4kg/10a	収穫21日前まで	3回以内	散布	3回以内
		ダイコンハムシ	4kg/10a				
れんこん	-	マコガネ	4kg/10a	収穫14日前まで	3回以内	散布	3回以内

作物名	適用場所	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
水田作物、畑作物(休耕田)	珙、椋、ス、セ、イ、カ、ア、ガ、チ、ウ等 の多年生雑草が優占している休耕田	カ、ム、シ、類	3~4kg/10a	-	3回以内	散布	3回以内

使用上の注意事項

- (1) 本剤は飛散を少なくするように製剤されており、一般の粉剤に比べ見かけ比重がやや大きく、流動性が良いので、散布の際は散粉機の開度を1目盛程度しぼって散布すること。
- (2) 蚕に対して長期間毒性があるので、近くに桑園がある場合には絶対に桑葉にかからないようにすること。
- (3) 散布器具、作業衣などは桑用と必ず区別すること。
- (4) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
 - 1) ミツバチ等の巣箱及びその周辺に飛散するおそれがある場合には使用しないこと。
 - 2) 関係機関（都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等）に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農薬使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めること。
- (5) イネミズゾウムシ成虫に使用する場合、移動範囲が広いのでなるべく広域でいっせいに防除し、畦畔などの周辺雑草にも散布すること。
- (6) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意すること。とくに適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 誤食などのないよう注意すること。
- (2) 本剤は眼に対して弱い刺激性があるので眼に入らないように注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗すること。
- (3) 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。
- (4) 作業後は手足、顔等を石けんでよく洗い、洗眼・うがいをすること。

水産動植物に有毒な農薬については、その旨

- (1) 水産動植物（甲殻類、冷水魚）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。養殖池等周辺での使用はさけること。
- (2) 散布後は水管理に注意すること。
- (3) 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通常の使用方法では、その該当がない。

貯蔵上の注意事項

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。